

## ジュニア部門／工芸（工作）

### 審査評

今年度の工芸（工作）には、コロナ禍にも関わらず83点にものぼる力作の応募がありました。身近な素材をうまく組み合わせて、自分の思いを巧みに表現した作品が多く、全体的にしっかり時間をかけて丁寧に制作した作品が多く見られました。

審査にあたっては、楽しみながら作ったことが伝わり、作品から子どもの声が聞こえてきそうな作品、表現に創造性が十分発揮されている作品を選出しました。

特選に選ばれた中の一作品「タングに命を吹き込もう」は、劇団のミュージカルに出てくるロボットを自分でも作って操作してみたいという制作の動機が明確で、丁寧に粘り強い技能が発揮されており、独創性のある迫力ある作品に仕上がっています。

今年度はコロナ禍のため、審査をWeb上で行いました。それぞれの作品を様々な方向から見て審査しましたが、触ったときの感触や重さと言ったそれぞれの作品がもっている質感、制作過程での制作者の思いなどを感じ取ることは難しかったというのが率直な感想です。

子どもたちには、作品づくりを通して創造性を発揮して形を作り出すことの喜びを味わう機会を多くもってほしいと思います。

（広島市立矢野小学校 校長 桐野 寿久）